

若手女優

二十一歳

第四卷 懲罰の緊縛ヌード写真集

海老沢 薫 著

## 内容

- 著作権について
- まえがき
- 第一章 田舎町で恥辱の撮影
- 第二章 全裸ボディペインティングで徘徊
- 海老沢薫 BLOG
- 海老沢薫 Web連載小説
- ※ 海老沢薫 BLOG
- ・ ・ ・ 最新作の出版情報や、そのほか各種コンテンツ情報を配信。

<https://ebisawakaoru.blog.2nt.com/>

■ 著作権について

「若手女優 二十二歳 第四巻 懲罰の緊縛  
ヌード写真集」(以下本書と表記する)の著作  
権は「海老沢薫」にあります。

・本書のすべての内容は、日本の著作権法、  
及び国際条約によって保護されています。

・「海老沢薫」が事前に書面をもって許可し  
た場合を除き、本書の一部、または全部を、  
あらゆるデータ蓄積手段(印刷物、電子フア  
イル、ビデオ、テープレコーダ)により複  
製、流用、転載、転売することを固く禁じま  
す。

・著作権の侵害につきましては、著作権法第  
119条などの罰則がありますのでご注意くださ  
い。

■ まえがき

駆け出しの若手女優、神里春奈は、女性マ  
ネージャーの山口の強引で過激な売り込み戦  
略によつて、人としての尊厳さえも奪われる  
ほどの屈辱を味わっていた。  
それでも、マネージャーの山口は、春奈を  
有名女優にするために、容赦なく新たな企画  
を提案する。それは、『緊縛』をコンセプト  
にした大胆で過激な『ヌード写真集』を製作  
することであつた。  
思いがけない展開に戸惑いを隠せない春奈  
だった。事務所の社長、滝川やマネージ  
ャーの山口に自らの痴態動画を握られていて  
は、彼女達の意向に背く事はできなかつた。  
而して、春奈のヌード写真集の撮影は早速  
始められることになり・・・。マネージャー  
の山口のアイデアで、撮影はプロのカメラマ  
ンではなく、春奈に縁のある三人の人物によ  
つて行われることに決まつた。

り  
・  
・  
・  
。  
い  
姿  
で  
田  
舎  
町  
の  
通  
り  
を  
引  
き  
回  
さ  
れ  
る  
こ  
と  
に  
な  
躊  
躇  
う  
春  
奈  
だ  
っ  
た  
が  
、  
結  
局  
、  
破  
廉  
恥  
極  
ま  
り  
な  
ま  
り  
に  
過  
激  
な  
も  
の  
で  
あ  
っ  
た  
の  
だ  
。  
ウ  
ソ  
で  
し  
ょ  
。  
。  
。  
。  
。  
想  
像  
以  
上  
の  
羞  
恥  
地  
獄  
に  
し  
、  
そ  
の  
格  
好  
の  
ま  
ま  
野  
外  
で  
撮  
影  
す  
る  
と  
い  
う  
あ  
な  
っ  
た  
春  
奈  
の  
体  
に  
ボ  
デ  
イ  
ペ  
イ  
ン  
テ  
ィ  
ン  
グ  
を  
施  
驚  
愕  
の  
指  
示  
を  
与  
え  
る  
。  
そ  
れ  
は  
一  
糸  
纏  
わ  
ぬ  
姿  
に  
握  
ら  
れ  
て  
い  
て  
は  
そ  
れ  
も  
叶  
わ  
な  
か  
っ  
た  
。  
も  
う  
と  
す  
る  
が  
、  
マ  
ネ  
ー  
ジ  
ャ  
ー  
の  
山  
口  
に  
弱  
み  
を  
は  
憎  
む  
べ  
き  
相  
手  
で  
、  
動  
揺  
し  
た  
春  
奈  
は  
撮  
影  
を  
拒  
て  
ア  
ナ  
タ  
が  
。  
。  
。  
。  
。  
な  
ん  
と  
目  
の  
前  
に  
現  
れ  
た  
の  
そ  
の  
姿  
を  
見  
た  
春  
奈  
は  
思  
わ  
ず  
絶  
句  
す  
る  
。  
ど  
う  
し  
す  
る  
と  
そ  
こ  
へ  
一  
人  
目  
の  
カ  
メ  
ラ  
マ  
ン  
が  
現  
れ  
、  
て  
来  
る  
。  
ら  
れ  
、  
最  
初  
の  
撮  
影  
現  
場  
と  
な  
る  
田  
舎  
町  
へ  
と  
や  
っ  
恥  
に  
怯  
え  
な  
が  
ら  
、  
マ  
ネ  
ー  
ジ  
ャ  
ー  
の  
山  
口  
に  
連  
れ  
の  
。  
。  
。  
。  
。  
春  
奈  
は  
ど  
う  
し  
よ  
う  
も  
な  
い  
不  
安  
と  
羞  
一  
体  
誰  
が  
私  
の  
ヌ  
ー  
ド  
を  
撮  
影  
す  
る  
っ  
て  
い  
う

商店街の店で買い物、突然の豪雨、地元の女子高生達との遭遇など様々な試練が哀れな若手女優に襲い掛かり、艶めかしい姿を演出する。やがて、一人目のカメラマンによる撮影が終わり、降りしきる雨の中、屈辱的な現実を受け入れられず放心状態のまま路上に座り込む春奈。しかし、ヌード写真集の撮影はまだ始まったばかりで、新たな二人目のカメラマンによる撮影が春奈の母校の校舎で行われようとしていた。想い出の教室、懐かしい校庭、そしてついには百人以上の同級生達が集まる同窓会の会場で、春奈は死ぬほど恥ずかしい姿を晒し、極限の羞恥に喘ぎながら撮影される事になるのだった。

■ 第一章 田舎町で恥辱の撮影

悪夢のようなドラマ撮影が終わり、若手女優の神里春奈は女性マネージャーの山口が運転する車で自宅へと戻った。同世代の女優達の前で素っ裸を晒し、体中を弄られ何度も絶頂する姿を晒した屈辱は、二十二歳の若手女優にとつて一生忘れることのできない汚点になつたに違ひなかつた。

もう女優なんて辞めたい。屈辱に塗れ一瞬そんな風に思った春奈だったが、それはすぐにメラメラとした野心へと昇華した。私は絶対に彼女達よりも有名な女優になつてみせる。そして彼女達に屈辱を味合わせる。そう心に強く誓つたのだつた。

撮影から数日後、春奈が出演した回のドラマが放送されたが、さすがに春奈が美術室で全裸になつたシーンや黒板に緊縛されて裸踊

りをしたたり、親友に秘部を弄られて絶頂する  
シーンはずべてカットされていた。ただ、春  
奈が絶頂する際の恥ずかしい顔だけは実際に  
放送され、視聴者達の脳裏に若手女優のイキ  
顔が深く刻み込まれることになった。  
そうして、SNSなどでそのシーンのキャ  
プチャ―画像と共に春奈のイキ顔が一部の視  
聴者の間で拡散されたが、世間を賑わすほど  
の話題になることはなかった。  
女性マネージャーの山口は、春奈が撮影現  
場で痴態の限りを晒したにも関わらず、ドラ  
マの出演シーンが世間の話題にもならなかつ  
たことを不服に思い、春奈を売り出すための  
次なる一手を模索していた。  
あの子にはどんな辱めを与えてでも必ず有  
名にするわ。・。山口のそんな強い想いは  
若手女優をさらなる羞恥地獄へ導く新たな企  
画をもたらすことになった。

出演したドラマの放送が終わってから数日

後、春奈は所属事務所の会議室に呼び出され、マネージャーの山口と事務所の女社長、滝川百合子と対峙していた。事前に、新たな企画の打ち合わせと聞かされていた春奈は少し緊張した面持ちで椅子に座っていた。そして、そんな春奈に向かって社長の滝川は、淡々とした口調で告げたのだ。『春奈ちゃんを女優として有名にするために今度ヌード写真集を製作することに決まったから宜しくね』というワードに春奈は思わず表情を強張らせた。『まだ世間にあまり名前を知られていない春奈ちゃんを売り出すためには、インパクトのあるヌード写真集を出すのが一番近道だと思っ。うの。それで写真集のコンセプトについて説明するわね』マネージャーの山口が社長の滝沢の話を補足するようにそう言うのと、唾然としている春奈

の前で、ヌード写真集についての具体的な説明を始めた。春奈は、まったく予期せぬ展開になかなか心が追いついていかなかった。目の前ではマナージャーの山口が極めて事務的な口調であり、さらに恥辱的な企画内容について説明し、それを聞いているだけで軽い目眩を覚えそうだった。どうしてヌード写真集なんか出さなきゃいけないの・・・？こんなことをして本当に有名人女優になれるの・・・？春奈の胸の奥には幾つもの疑問が湧き上がり、マネージャーの山口だけでなく社長の滝沢のことも信じられなくなりかけていた。縛姿『をコンセプトに三名の写真家にそれぞれあのアイデアで撮影してもらおうという事であった。そして、その三名の写真家は春奈に縁ある者達という事で、どうやらプロのカメラマンではないようだった。

初めて対面することになっており、春奈はド  
ていた。一人目のカメラマンとは撮影現場で  
に最初の撮影場所となる田舎町へとやって来  
に数日後、春奈はマネージャーの山口と一緒  
に取り組むことになった。ド写真集の製作  
のヒロインとなるべく、ヌード写真集の製作  
こうして、哀れな若手女優は新たな羞恥劇  
ド写真集を製作するしかなかったのだ。  
した企画を断ることなどできず、嫌でもヌー  
みを握る脅迫者達と同じであり、二人が提案  
た。そのため、春奈にとって二人は自分の弱  
の滝川やマネージャーの山口にも握られてい  
たが、その時の一部始終を捉えた動画は社長  
ない痴態は、実際に放送されることはなかつ  
場やドラマの撮影現場で晒したどうしようも  
先日、畏に掛かったドッキリ番組の収録現  
を煽った。  
にまた新たな疑問が沸き上がり、さらに不安  
のある人達って誰なの・・・？春奈の胸の奥  
一体誰が私のヌードを撮るっていうの、縁

キドキシしながら待ち合わせ場所の公民館の前  
に辿り着いた。  
「春奈ちゃん、久しぶりい！」  
春奈が現れると、大きな声で手を振りながら  
近づいてくる女性の姿があった。  
えっ、どうしてアナタがここにいるの？ 自  
分の方に笑顔で近づいてくる女性を見た春奈  
は、その思いがけない姿に驚き、暫し呆然と  
立ち尽くした。  
「こんにちは、今日はよろしくお願ひします  
春奈の隣にいるマネージャーの山口は、近づ  
いてくる女性の方に笑顔で挨拶し頭を下げた。  
一体どういうことなの・・・？もしかして  
コレって・・・目の前にやって来た女性に  
丁重に挨拶をするマネージャーの姿を見た春  
奈は、その時悪夢のような現実を悟ったのだ  
った。春奈とマネージャーの山口の前に現れ  
た女性、それはこないだのドラマ撮影現場で  
春奈に屈辱の限りを味合わせた主演女優の片  
瀬夕貴であったのだ。

「今回、春奈ちゃんの写真集のカメラマンを務めることになった片瀬です。今日はよろしくね。」

片瀬はそう言うと、春奈の目の前で意味深な笑みを浮かべて見せた。

「そんな・・・」

厭な予感が的中した春奈は顔面蒼白となり、言葉を失ってしまった。

「片瀬さん、今回はお忙しい中、春奈の写真集のためにカメラマンを引き受けてくださり本当にありがとうございます。」

マナージャーの山口は改めて丁寧に挨拶をする。すると深々と頭を下げた。

そして、まだ呆気にとられた様子の春奈を注意し、春奈にも挨拶を促した。

「きよ、今日は私のために、ありがとうございます。」

マナージャーの山口に注意された春奈は仕方なく震える声で挨拶し、憎むべき相手に頭を下げた。

「春奈ちゃんのファースト写真集がすばらし  
いものになるように私も全力で頑張るから、  
一緒に良い作品を作ろうね」  
片瀬は目の前で怯える春奈に対し、相変わら  
ず意味深な笑みを浮かべながら声を掛けた。  
同世代の女優、片瀬夕貴と衝撃の再会を果  
たした春奈は、今回の写真集の撮影が自分を  
辱めるために仕組まれたものであり、この見  
知らぬ田舎町でこれから途轍もない羞恥地獄  
が待ち受けていることを確信した。  
目の前で意味深に微笑む片瀬を見ていると  
先日のドラマ撮影現場で全裸緊縛され、秘部  
に指を挿入されて好き放題に弄り倒されイカ  
された忌まわしい記憶が鮮明に蘇り、あろう  
ことか下半身がなぜか熱くなっってしまった。  
「それじゃあ春奈ちゃん、早速撮影の準備を  
するからこつちに来てくれる」  
片瀬はそう言うのと、公民館の中に春奈を案内  
した。

ものなのか、それを想像するだけで春奈は厭  
な予感と同時に下半身がさらに疼くのを感じ  
た。ああん、私感じてしまってる・・・どう  
してなの・・・。これから羞恥地獄が待ち受  
けていると知りながら、勝手に疼く体かもど  
かしく、春奈は自己嫌悪に陥りそうになった  
。而して、若手女優は体を震わせながら公民  
館の中に用意された一室に入った。  
「春奈ちゃん、それじゃあ素っ裸になつてく  
れる」  
片瀬は淡々とした口調で春奈にそう命じた。  
「はい・・・」  
春奈は小さく頷くと、覚悟していたかのよう  
に服に手を伸ばし、ゆつくりと脱ぎ始めた。  
傍にいろマネージャーの山口と片瀬は互いに  
顔を見合わせ微笑み合った。  
それは、これからこの美しい獲物を二人で  
一緒にいたぶりましょうという暗黙の了解に  
他ならなかった。春奈は二人がそんな意思疎  
通をしていることも知らず下着姿になると、

まずブラジャーを外し、それから一度深呼吸をした後、最後の一枚を脱いでいった。「ああん、恥ずかしい・・・」

同世代の女優の前で再び素っ裸を晒した春奈は、恥ずかしさのあまり思わず喘いだ。

「春奈ちゃん、それじゃあ両手を頭の後ろで組んでこつちを向いてくれる」

片瀬がそう命じると、春奈はその成熟した体の隅々までを片瀬に晒したのだった。

片瀬は春奈の美しい肢体に顔を近づけ、その細部までをじっくりと鑑賞した。羨ましいほどの豊かな乳房、その先端にある綺麗なピンク色の乳首、括れたウエスト、形良く脂の乗ったお尻、細く伸びた美脚、そして先日自らの手で恥毛を刈り取り、ツルツルになった股間。そのどれもが完璧で、同性から見ても欲情をそそられる代物だった。

「アナタには今日もたつぷりと恥を掻かせてあげるわ・・・。片瀬は嫉妬の炎をメラメラと燃やしながらか、心の中でそう呟いた。

「春奈ちゃん、そしたら今からアナタのこの素敵な体にお絵描きするから、そのままじっとしていてね」

片瀬は笑みを浮かべながらそう言うのと、持ってきた大きな鞆の中から何かを取り出した。

いやぁん、一体何をするつもりなの・・・。  
春奈は全裸で立ち尽くしたまま両脚を小刻みに震わせた。片瀬は、右手に絵の具用の筆を握り、左手には塗料の入ったパレットを持つて、怯える春奈の前に再び立った。  
「春奈ちゃん、今から撮影用の衣装を体に描いてあげるから、じっとしていてね」  
片瀬はそう言って悪戯っぽく微笑むと、筆にパレットの上の塗料を塗り、それを春奈の綺麗なピンク色の乳首に近づけていった。  
「いやぁん」  
筆先で乳首を撫でられた春奈は恥ずかしい喘ぎ声を漏らして、体を僅かに揺らした。  
「ほら、じっとしてっって言ってるでしょ！」  
片瀬は喘ぐ春奈を面白そうに眺めながら注意した。  
「ご、ごめんなさい・・・」  
春奈は両手を頭の後ろで組んだまま、豊かな乳房を片瀬に向かって突き出し、乳首を撫でられる快感に耐えた。

片瀬は快感に耐える春奈の苦悶の表情に時々目を遣りながら、その体に筆で衣装を描いていった。乳首から始まったペインティングはやがて乳房全体に広がり、さらに下腹部やお尻にまで筆を這わせていった。ああん、こんなことして一体どんな撮影をするつもりなの・・・？春奈は裸に絵を描かれる屈辱と筆が這う快感に耐えながら、どうしようもなく不安を募らせていった。片瀬の事だから、きっとまた途轍もない羞恥責めを考えているに違いなく、それを想像するだけで剥き出しの下半身がジワつと熱くなった。「これで完成だね」春奈の体を隅から隅まで満足そうに眺めた。「春奈ちゃん、それじゃあ今から外に撮影しに行こうか」片瀬はそう言うと、鞆の中に筆やパレットを片付け、春奈を連れて部屋の外に出ようとした。

「待ってください！私、裸なんですよ。こんな格好で外になんか行けません！」  
素っ裸で外に連れ出されそうになった春奈は慌てて訴えかけた。  
「春奈ちゃん、なに言ってるのよ。アナタちゃん、服を着ているじゃない。ほら、コレ見なさい」  
片瀬はそう言うと、鞆の中から手鏡を取り出して春奈に渡した。  
「イヤあっ・・・」  
渡された手鏡で自分の体を見た春奈は思わず小さな悲鳴を上げた。  
なんとそこには、裸の上に白いTシャツと黄色の短パンをボディペインティングされた何とも卑猥な姿が映っていたのだ。  
「とつても良く描けているでしょ。これならアナタが裸だなんて誰も気づきやしないわよ（笑）」  
片瀬は勝ち誇ったように笑いながらそう言った。

「そうよ春奈ちゃん、これなら絶対に裸だと  
思われないわ。もつと自信を持ちなさい！」  
傍にいろマネージャーの山口も片瀬に同調す  
るようにそう言って、春奈に素っ裸のまま外  
へ出るよう促した。  
「そ、そんな・・・」  
片瀬とマネージャーの山口のあまりに無茶な  
言い分に春奈は戸惑いを隠せなかった。確か  
に遠くからだと服を着ているように見えるか  
も知れないが、近くで見れば乳首や乳輪がは  
つきりと分かり、服を着ていないのは一目瞭  
然だった。  
こんな格好で外で撮影なんて絶対無理よ。  
もしも裸だとバレたら、私捕まっちゃうわ。  
恐れていたとはいえ、まさかここまで酷い羞  
恥責めに遭うとは思っていなかった春奈は二人  
に縫うような目を向け、許しを乞うた。  
「春奈ちゃん、私の命令に従えないなら、ア  
ナタの恥ずかしい動画を世間にばらまいても

良いのよ。そしたらアナタはもう女優として  
は終わりね」  
なかなか言う事を聞こうとしない春奈に業を  
煮やした片瀬は、そう言って脅した。  
「春奈ちゃん、アナタ有名な女優になりたい  
んでしょ？だったらこれくらいの事を平気で  
やれる度胸がないとダメよ！」  
マネージャーの山口は厳しい口調で怯える春  
奈を叱咤した。  
「そんな・・・」  
二人に責められた春奈は、何も言い返す事が  
できず、暫し体を震わせながら立ち尽くした  
そして、片瀬とマネージャーの山口がどうや  
っても自分の願いなど聞き入れてくれない事  
を悟った春奈は、ついに悲しい覚悟を決める  
しかなかった。  
「わ、わかりました」  
春奈は震える声でそう言うと、裸にボディペ  
インティングを施しただけの格好で部屋を出  
たのだった。

田舎町の公民館の外には、幸いほとんど人影はなく、春奈は両手で乳房と股間を隠し、辺りをキョロキョロと見渡しながら歩き始めた。春奈ちゃん、なんだか挙動不審に見えるか、周りを気にするのはやめなさい。それから両手もちやんと下ろすのよ！」片瀬がキツく注意すると、春奈は仕方なく両手を胸元と股間から離し、真っ直ぐと前を向いて歩いた。ああん、私、裸で外を歩いている。・・・このための通行人はまばらだったが、それでも誰か気づかれるかも知れないと思うと、まったく生きたま心地がしなかつた。カメラマンを務める片瀬が先頭を歩き、その影に隠れるように春奈が続き、一番後ろをマネージャーの山口が歩いた。片瀬は全裸の春奈を市中引き回しにするかのように田舎町

の通りを歩き続け、春奈は十分以上もの間全裸で野外を歩かされることになった。「それじゃあ、この辺で撮ろうかしら」片瀬は田舎町の中で一番店が多い場所までやって来ると、ようやく立ち止まり春奈の方を振り返った。「通りには個人商店が並び商店街のようになっていたため、買い物に来た地元の人達が行き交う姿が見てとれた。ああん、お願いこつちを見ないで・・・。素っ裸の春奈は、少し離れた場所を歩く主婦達に気づかれないかと気が気でなかった。」春奈ちゃん、今回の写真集のテーマは『緊縛』でしょ。だから、両手を縛りたいんだけど、私、縛るモノを持ってくるの忘れちゃったから、悪いけどあそこの店で買ってきて」片瀬はそう言うのと、商店街の中にある文房具店を指差した。「えっ・・・」

春奈は、片瀬の唐突な申し出に思わず絶句した。自分の体を縛るための道具を自分で買いに行かなければならない事も屈辱であったが、なによりこんな素っ裸にボディペインティングを施したただけの格好で買い物に行くなど到底考えられなかつた。  
「春奈ちゃん、サツサと言われた通りにしなさい！アナタ、自分の立場を忘れたの！」  
春奈がいつまでも躊躇っている、マネーレジヤーの山口が厳しい口調で注意し、春奈の剥き出しのお尻をピシヤツと平手打ちした。  
「痛い・・」  
春奈は強烈な痛みに苦悶の表情を浮かべ、目の前にいる非情な二人からは決して逃れられないことを改めて思い知った。  
「わ、わかりました・・」  
春奈はそう告げると、片瀬からお金を受け取り、商店街の中にある文房具店へ向かって歩き出した。

本当に酷い人達だわ・・・。文房具屋の前  
までやって来た春奈は片瀬達の方を振り返り  
恨めしそうに二人を見つめた。そして、何度  
か深呼吸をした後、思い切って店の中に入っ  
ていったのだった。

■ 海老沢薫 B L O G

・ ・ ・ 最新作の出版情報や、そのほか各種コンテンツ情報などを配信。

<https://ebisawakaoru.blog.2nt.com/>

■ そのほか SNS

[https://x.com/ebisawa\\_K](https://x.com/ebisawa_K)

[https://www.instagram.com/kaoru\\_ebisawa/](https://www.instagram.com/kaoru_ebisawa/)

<https://www.pixiv.net/users/70200870>

■ 海老沢薫 Web 連載小説

『 清楚な美人妻 彩 27 歳 絵画モデル編 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=9281>

『 清純派女優 結衣 24 歳 国民のペットへと堕ちていくヒロイン 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18802>

『 清純派女優 結衣 24 歳 女神の憂鬱 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=26675>

『 女教師 玲奈 25 歳 女性教諭の前代未聞の不祥事 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=17186>

『 美人社長 里帆 26 歳 若き女社長のプライドを砕く屈辱の契約 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18885>